

平成24年10月1日  
株式会社日本政策金融公庫

## 昨年は震災の影響あるも、 一部業種では価格高により増益

— 日本公庫・平成23年農業経営動向分析結果 —

日本政策金融公庫（日本公庫）農林水産事業では、平成23年のご融資先の農業者（対象7,714先）の決算データを基に、その経営動向について分析を行いました。

<分析結果のポイント>

### ○ 耕種部門では稲作が増収増益の一方、露地野菜、施設花きが減益

稲作は震災後に米の品薄感が強まり、米価が前年産と比べて大幅に上昇したことや、米の品質が平年並みに回復したことにより増収増益となった。

一方、露地野菜は夏場の猛暑の影響で価格が高騰した前年に比べ、多くの野菜で市場価格が下落したため減益となったほか、施設花きは震災後の自粛ムード等により花の市場価格が軟調に推移したため減益となった。

### ○ 畜産部門では採卵鶏、ブロイラーが増益、肉用牛はほぼ横ばい

採卵鶏は震災後に鶏卵が品薄となり、卵価が一時高騰したため増益となった。

ブロイラーは震災後の節約志向等による需要の高まりから、23年前半の鶏肉価格が堅調に推移したため増益となった。

肉用牛は震災による消費の減退や、原発事故により暫定規制値を超える放射性物質が検出された影響から、出荷制限4県を中心に価格が低下したが、肉用牛肥育経営安定特別対策事業（新マルキン）について、毎月補填金の算定・支払を行う特例措置が取られたこと等により収益が下支えされ、売上・利益ともほぼ横ばいとなった。

分析対象先：農業を営む当公庫のご融資先のうち7,714先（個人7,016先、法人698先）  
対象経営部門（農業収入の第1位部門で区分）

① 耕種8部門：稲作、北海道畑作、果樹、露地野菜、施設野菜、施設花き、茶、きのこ  
（法人はこのうち北海道畑作を除いた部門）

② 畜産5部門：酪農、肉用牛肥育、養豚一貫、採卵鶏、ブロイラー

対象決算期：平成21年～23年までの3ヵ年を経年比較

平成23年農業経営動向分析(概要)

経営部門			個人経営			法人経営			概要
			サンプル数	売上高	農家所得 (専従者給与控除前)	サンプル数	売上高	経常利益	
耕種	稲作	北海道	1,429	↑	↑↑	259	↑	↑↑	震災後、米の品薄感が強まり、米価が前年産と比べて大幅に上昇したことや、米の品質が平年並みに回復したことから、個人、法人とも増収増益となった。
		都府県	1,244	↑	↑↑				
	北海道畑作		93	→	↓				小麦や馬鈴薯、てん菜の収穫量は前年より増加したものの、経費の増加により減益となった。
	果樹		295	→	→	11	↑	↑↑	みかんは表年で価格が下落した一方、りんごは価格が上昇し、個人全体では売上・利益ともほぼ横ばいとなった。一方、法人は利益水準が低いながらも増益となった。
	露地野菜	北海道	121	→	↓	14	→	↓	夏場の猛暑で価格が高騰した前年に比べ、多くの野菜で市場価格が下落したことから、個人、法人とも減益となった。また、原発事故により一部産地の露地野菜から暫定規制値を越える放射性物質が検出された影響で、関東産の露地野菜の市場価格が一時下落したことも減益につながった。
		都府県	243	→	↓				
	施設野菜		486	↑	→	31	→	↑↑	前年の価格を下回る野菜が多い中、トマトを中心に果菜類の価格は比較的堅調に推移し、個人は売上・利益ともほぼ横ばいとなった。一方、法人は経費削減により増益となった。
	施設花き		295	→	↓	18	→	↓↓	震災後の自粛ムード等により、きくを中心に花の市場価格が軟調に推移したため、個人、法人とも減益となった。
	茶		203	→	→	22	→	↓	春先の低温等により生育が遅れ、高値の付く時期に量が揃わなかったことから、一番茶の価格が前年産を下回ったため、法人では減益となった。
きのこ		31	→	↓	16	→	↑↑	主なきのこの市場価格が軟調に推移したため、個人では減益となった。一方、法人は経費削減により増益となった。	
畜産	酪農	北海道	1,174	→	→	38	→	↑	22年夏の猛暑による繁殖への影響や、震災の影響で都府県の生乳生産量がやや減少した。一方、総合乳価はほぼ前年並みで推移したため、北海道の法人経営が増益となった他は、売上・利益ともほぼ横ばいとなった。
		都府県	782	→	→	69	→	→	
	肉用牛肥育		405	→	→	55	→	→	震災による消費の減退や、原発事故により暫定規制値を越える放射性物質が検出された影響から、出荷制限4県を中心に価格が低下したが、肉用牛肥育経営安定特別対策事業(新マルキン)について、毎月補填金の算定・支払を行う特例措置が取られたこと等により、収益が下支えされ、売上・利益ともほぼ横ばいとなった。
	養豚一貫		146	↑	↑	102	→	↓	22年夏の猛暑の影響等により、23年前半の出荷頭数が減少し、豚肉の市場価格が堅調に推移したため、個人は増収増益となった。一方、法人は経費の増加により減益となった。
	採卵鶏		39	↑	↑	50	→	↑	震災後、鶏卵が品薄となり、卵価が一時高騰したことにより、個人、法人とも増益となった。
	ブロイラー		30	→	↑	13	→	↑↑	震災後の節約志向等による需要の高まりから、23年前半の鶏肉価格が堅調に推移したため、個人、法人とも増益となった。

注) 農家所得(専従者給与控除前)及び経常利益は減価償却前の金額

・前年比(売上高、利益+償却費)    ↑↑ : 20%以上増    ↑ : 5~20%増    → : ±5%増減    ↓ : 5~20%減    ↓↓ : 20%以上減

個人経営における平成23年収支状況

個人経営												
経営部門			サンプル数	経営規模		売上高(百万円)			農家所得(専従者給与控除前)(百万円)			
				単位	22年 A	23年 B	22年 A	23年 B	増減率 ((B/A)-1)*100	22年 A	23年 B	増減率 ((B/A)-1)*100
耕種	稲作	北海道	1,429	水稲作付面積(ha)	14.4	13.1	22.3	26.6	19.1%	8.0	11.4	41.6%
		都府県	1,244		10.9	11.4	20.7	23.9	15.3%	8.3	10.6	27.6%
	北海道畑作		93	経営耕地面積(ha)	31.9	32.0	35.2	35.1	▲0.2%	11.4	10.8	▲5.4%
	果樹		295	第1位品目作付面積(ha)	2.5	2.5	14.2	14.2	0.1%	5.9	5.7	▲4.0%
	露地野菜	北海道	121		7.3	7.0	37.4	36.7	▲2.0%	14.5	13.3	▲8.6%
		都府県	243	3.1	3.2	31.2	30.3	▲2.9%	12.6	11.4	▲9.4%	
	施設野菜		486	第1位品目栽培面積(千㎡)	5.6	5.7	26.7	28.1	5.2%	9.9	9.9	0.4%
	施設花き		295		5.2	5.3	32.8	31.4	▲4.1%	10.9	9.7	▲11.3%
茶		203	茶園面積(ha)	5.5	5.7	24.4	24.9	1.8%	7.9	7.5	▲4.8%	
きのこ		31	第1位品目収穫量(t)	58.4	57.0	28.6	29.6	3.4%	6.5	6.0	▲7.7%	
畜産	酪農	北海道	1,174	成牛頭数(頭)	90.2	93.9	67.1	68.7	2.3%	15.5	15.1	▲2.8%
		都府県	782		60.9	62.2	61.1	61.8	1.2%	15.9	15.3	▲3.4%
	肉用牛肥育		405	飼養頭数(頭)	226.8	231.0	101.9	103.0	1.1%	11.2	10.9	▲2.6%
	養豚一貫		146	繁殖雌豚頭数(頭)	140.8	141.4	87.7	92.1	5.0%	12.7	13.5	6.3%
	採卵鶏		39	飼養羽数(千羽)	28.3	27.0	80.3	85.5	6.5%	8.6	9.7	12.9%
	ブロイラー		30		70.4	71.9	148.8	154.7	4.0%	10.1	11.7	16.3%

法人経営における平成23年収支状況

法人経営													
経営部門			サンプル数	経営規模		売上高(百万円)			経常利益(百万円)				
				単位	22年 A	23年 B	22年 A	23年 B	増減率 ((B/A)-1)*100	22年 A	23年 B	増減率 ((B/A)-1)*100	
耕種	稲作	北海道	259	水稲作付面積(ha)	26.2	27.1	46.2	53.6	15.9%	8.6	13.1	52.5%	
		都府県											
	北海道畑作		11	第1位品目作付面積(ha)	9.2	9.8	43.5	47.5	9.1%	2.4	3.4	39.9%	
	果樹		14		25.8	26.6	117.7	115.4	▲2.0%	12.9	10.9	▲15.3%	
	露地野菜	施設野菜		31	第1位品目栽培面積(千㎡)	9.1	9.4	83.5	80.8	▲3.2%	10.1	14.4	42.9%
		施設花き		18		10.1	10.4	92.0	89.8	▲2.3%	6.0	3.4	▲43.2%
	茶		22	茶園面積(ha)	26.8	28.9	147.3	150.5	2.2%	18.1	14.9	▲17.8%	
	きのこ		16	第1位品目収穫量(t)	448.2	453.0	247.6	249.3	0.7%	11.2	16.2	45.3%	
畜産	酪農	北海道	38	成牛頭数(頭)	301.6	308.8	259.1	262.5	1.3%	44.1	47.1	6.8%	
		都府県	69		148.1	148.7	145.5	148.3	2.0%	27.2	26.0	▲4.3%	
	肉用牛肥育		55	飼養頭数(頭)	1,060.0	1,094.7	431.9	440.1	1.9%	24.4	25.2	3.4%	
	養豚一貫		102	繁殖雌豚頭数(頭)	398.8	400.7	292.8	303.4	3.6%	25.1	23.0	▲8.1%	
	採卵鶏		50	飼養羽数(千羽)	203.7	205.1	666.9	671.7	0.7%	47.7	52.2	9.4%	
	ブロイラー		13		142.8	148.5	385.6	380.0	▲1.5%	1.0	9.4	857.9%	

注1) 農家所得(専従者給与控除前)及び経常利益は減価償却前の金額

注2) 増減率はラウンドの関係で数値が合わない場合がある